

授業科目名	舞台芸術実習 B	担当教員	山内 健司・杉山 至・尾西 教彰・児玉 北斗・石井 路子・近藤 のぞみ・河村 竜也・深澤 南土 実・岡元 ひかる・鎌田 麻衣子・島村 和秀・山谷 典子
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2 年 第 3 クォーター		
講義内容	<p>これまでに履修した講義や演習、実習の学びを踏まえ、舞台芸術の実作を通じて、作品を作り出す者として自立する第一歩とする。国内外の創作、および創作環境についての現在をふまえコンテポラリーな作品制作を考察する礎とする。作品制作にまつわるすべての職種において、誰もが主体的に全体の仕事にあたる創作環境を獲得し、協働による創作に臨む。多様な表現者と多様な観客とが、お互いを尊重して集うことのできる場としての作品をつくる。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表現者としての自立を目指し創作に臨むことができる。 2. お互いを尊重して、さまざまな立場の者が協働して創作活動に臨むことができる。 3. 表現者と観客が集う場の価値を認識し、高めることができる。 4. 国内外の表現、および創作環境について知り、コンテポラリーな作品創作について述べ、実践をすることができる。 		
授業計画	<p>舞台芸術実習 B は、学生が主体となって、観客や創作のチームメンバーと向き合い、上演芸術における現在性に着目する。創作過程においては、チーム内でさまざまな立場のメンバーと向き合うことで、個人が尊重され生かされる協働的な創作のあり方を学ぶ。上演においては、観客と同じ空間に集い、同じ時間を過ごすことの意味を考えた創作をおこなう。</p> <p>本科目は 80 時間の臨地実務演習等にあたり、外部の実習指導者が指導にあたることから、時間割枠外での実施がある。</p> <p>また、内容については、以下の様な内容を取り扱うが、プロジェクトやセッションによってその詳細は異なる。授業内でも一定の制作時間を確保するが、進捗によっては各自が授業外で制作に取り組む必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 制作方針の共有 2. 題材などのリサーチ、稽古開始 3. 稽古、プランニング 4. 稽古、イメージを深める 1 5. 通し稽古、イメージの共有 1 6. 稽古、イメージを深める 2 7. 通し稽古、イメージの共有 2 		

	<p>8. 技術・プロダクションの打ち合わせ</p> <p>9. 劇場仕込み・公演準備</p> <p>10. 最終リハーサル</p> <p>11. 公演</p> <p>12. 振り返り、フィードバック</p>
事前・事後 学習	<p>事前に、個人的な準備(リサーチ、セリフ入れ、課題設定、プランニング、スケジュール調整など)を十分に行なって実習に臨むこと。</p> <p>チーム内、パートナーとの相談・練習を十分に行なって創作に臨むこと。</p> <p>また、該当する場合はプロジェクトの事前学習会、中間報告会、完了報告会等への参加も必須となる。</p>
テキスト	授業内で指示する。
参考文献	授業内で指示する。
成績評価 の基準	制作プロセス(70%) 課題・成果物 (30%)
履修上の注意 履修要件	<p>本実習は並行する複数のプロジェクトを通して実施するため、別途公開される募集要項を熟読の上、申し込みを行うこと。</p> <p>外部の実習指導者が指導にあたることから、時間割枠外での実施がある。</p> <p>また個別に制作を行うため、授業時間外の学習・作業がある程度必要となる。</p>
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は志望理由等をもとに選考します。